

# あくていぶ



わがまちたかつき  
切り絵紀行

いずりは  
「出灰両国橋」  
切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

## 特集

### 平和展 戦争をなくしていくのは私たち



令和3(2021)年度

# 第35回 平和展

～ 戦争をなくしていくのは私たち ～

戦争は最大の人権侵害であり、今なお世界のどこかで戦争が繰り返され、人の命が失われています。戦争を知らない世代が大多数を占める今日ですが、戦争の悲惨さ・恐ろしさと平和の尊さを次世代に語り継いでいかねばなりません。

平和のないところに人権は守られない。人権のないところには平和は存在しない。今年の平和展は、戦争の悲惨な記憶を風化させることなく二度と同じ過ちを繰り返さない強い意志を持って、「平和について」自分自身の問題として考えてほしいという思いを込めて、「戦争をなくしていくのは私たち」を主題としました。

令和3年8月5日(木)から6日(金)の2日間にわたり、市立生涯学習センターで、第35回平和展～戦争をなくしていくのは私たち～資料展と映画会を開催しました。



## 特別展示

### ～ 絵画と漫画を通して見つめる私の中の平和～

「平和アピール漫画展」(立命館大学国際平和ミュージアム所蔵)



世界の漫画作家に呼びかけて寄せられた平和をアピールする漫画作品を展示しました。作品は日本、韓国、中国、フィリピン、タイ、イラン、ロシア、ウクライナ、セルビア、スロバキア、ルーマニア、ブルガリア、ドイツ、オーストリア、イタリア、エジプト、シリア、メキシコ、ブラジルから寄せられ、中には日本の漫画界をけん引してきた有名な漫画家の作品もありました。過去に戦争や紛争を体験し、今も隣り合わせにある漫画家の作品もあり、作品のデザインや色彩等から平和へのメッセージを強く訴えています。

作品に込められた平和への想いを感じながら、「戦争とは何か」「平和とは何か」を自分なりに考え、現在を見つめる機会となりました。

### 気に入った作品にその思いやコメントを書いていただきました

国が違って  
言葉が通じなくても  
心は通じ合える

ずっと平和が続くよう  
私たちが  
つなげていかなば

こどもは未来  
決して武器を  
もたせない

戦争ではなく  
お花で美しい世界に

核兵器のない  
兵器を必要としない  
世の中に

平和な毎日の中に  
戦争の芽が出ないように  
日々を大切に

平和な未来を今考え  
みんなで  
きっと変えられる

満蒙開拓青少年義勇軍の入隊から終戦の体験をもとに製作された紙芝居を展示しました。過酷な辛酸を嘗めた当時の思い出は、心の奥深くにしまい込んでおきたい。しかし、その体験を記録に残すことを決意された上村正次さん（紀の川市在住）の体験を、昨年、本市在住の街頭紙芝居師つるちゃんが画と文にした紙芝居です。命さえ危ない状況の中を潜り抜けた実話から、戦争の悲惨さと平和の尊さ、満州で未だ生きて帰らぬ友人を忘れまいとする想いをひしひしとを感じる内容でした。



▲街頭紙芝居師つるちゃんの紙芝居、  
絵と横に物語を展示



▲紙芝居の一場面  
「ぼくらは和歌山から来たもん  
ばかりの和歌山中隊や」

満蒙開拓青少年義勇軍をご存知でしょうか？当時、日本では「満州国は日本の生命線」等のスローガンが充満し、満州国で日本人の比率を増やす必要に迫られ、政府は農業移民を奨励し、満州農業移民百万戸入植計画を発表しました。しかし、日中戦争が勃発すると、働き盛りの男子が軍隊に採られてしまったため、小学校を卒業したばかりの14～15歳のこどもを訓練し、満州で農業に従事させようという構想があり、それが満蒙開拓青少年義勇軍でした。義勇軍の隊員たちは、国策の二文字を信じ、極寒での厳しい訓練、そして敗戦と難民生活、その他数々の苦難の道を辿りました。

つるちゃん  
の  
コメント

会場にいらっしゃった方々が、紙芝居の前で足をとめて、裏書きを丁寧に読んでくださっていた姿がとても印象的でした。二度と戦争を起こしてはいけません。未来を担う若い人たちに戦争の悲惨さを伝えるのが私の役割…。これからも紙芝居を通して、平和の尊さを伝え続けていきたいと思います。

参加者  
からの  
コメント

- 色々な絵や紙芝居を見て、これからがんばるのは私たちだ！と思いました。だからできることは少ないと思うけど、もう戦争なんておきないようにできることをがんばりたい。（10代）
- 私は中国のハルビン（昔の満州）の出身の中国人です。小さい頃からこの戦争の話をいっぱい聞きました。戦争はどの国の人にとっても悲しい話です。もちろん視点も違いますが、心から世界の平和を祈ります。このような展示はこれからもたくさんやって下さい。（40代）
- 戦争のテーマを現代の若者でも理解しやすい「マンガ展」にされたのはとても良いアイデアと思いました。（50代）
- 戦争はいきなり始まるのではなく私たちの暮らしを少しずつ不自由にさせて、いつの間にか間違った道にあゆみを進めるのだと思います。戦争は絶対に反対します。（60代）
- 命の大切さこそ人権の根本であると思いました。資料の内容がとてもよかったです。たくさんの人にも見て感じていただきたいです。（80代）



平和の木

小学校や学童保育室から  
平和へのメッセージ



願いが込められた折り鶴

市民の皆様と会場に寄せられた  
折り鶴



原爆と人間展



住田 功一さん

## 人権講演会 心の豊かさを求めて

元NHKアナウンサーで「関西発ラジオ深夜便」のアンカー住田功一さんをお迎えして、「障がいのある娘とともに歩いて見えてきたこと」と題し、講演会を開催予定でしたが、緊急事態宣言の延長を受け、無観客での動画収録をいたしました。（一社）高槻市人権まちづくり協会のホームページでは講演会の動画配信を9月30日（要申込）まで行っています。

※詳しくは、当協会のホームページまで。また、下記のとおり「無料上映会」を開催する予定となっています。

### 講演会 「障がいのある娘とともに歩いて見えてきたこと」

障がいのある娘と歩いてきて19年ということになりますが、何が見えてきたのか。実はまだ正解という答えはありません。しかもそこに「障がいのある」という言葉がありますが、何が障がいなのか。そして、それを私たちはどう受け止めるのかということも、これも私、まだつかみ切れていない部分があります。現在進行形というか途中経過というか、そういったことを見ていただこうと、そんな中でみなさんに感じとっていただければと思います。

私の娘はダウン症であります。ダウン症は染色体の異常により、知的発達の遅れやあるいは心疾患などの合併症を伴うこともある先天性の症候群だと定義されています。どの国も800人から1,000に一人の割合で生まれます。21番目の染色体が通常より1本多い3本ということから3月21日が「世界ダウン症の日」と国連で定めています。多くの人に知っていただこうと活動もしています。

実は、障がい児、障がい者の事故がいろいろ起きています。2016年誤嚥事故、間違っって物をたくさん飲み込んでしまって、喉に物を詰まらせて亡くなるという事故です。私はこうした障がい児者の事故をゼロにしたいと多くの人に呼び掛けています。

次に高等支援を卒業した子どもがすぐ直面する問題です。そこで様々な支援に区切りがつかます。これから障がいをもっている子どもたちがどう作業所に通う

のか、あるいはその先、親が年をとってきますので、グループホームに入るのか、どうするのか。親がいなくなった後どうするのか。というのが障がいのある子どもたちが直面している問題です。「親なきあと」というテーマです。親がいなくなった、高齢になって親がもう子どもたちの世話をできなくなった、その後どうするかということが、障がいのある子どもたちの親にとっても、今、最大のテーマです。

それから、長い道のりの中には、「きょうだい児」の問題があります、なかなか障がいを持つきょうだい児が、どんな気持ちでいるのか、親の目がなかなか向きにくい状況もあり、実は障がいのある子どもたちの「きょうだい児」のケアも非常に大切なテーマとなっています。

まだまだ、私たちが親は、子どもたちのためにどのようにすれば良いのか模索が続いているんですけども、日々暮らす中で、そして他のおやごさんといういろいろおはなしをしたり、そういう同じ障がいのあるおやごさんとの繋がりの中で、私が約20年近く娘とともに歩いてきて学んできた途中経過といいますが、それをおはなしいたしました。

みなさんの身の回りにいらっしゃる障がいのある子どもさんと、どう向き合っていくのかということに少しでも参考になればと思います。

### 市内各公民館等において、人権講演会（録画）を無料上映で開催します。

月日	会場	時間	定員	電話	連携単位会
10/12 (火) 14 (木)	磐手公民館	午前10時～正午 午前10時～正午	40人 40人	685-2110	8中単位会
10/25 (月)	城内公民館	午前10時～正午 午後2時～4時	24人 24人	671-4644	1中単位会
11/5 (金)	如是公民館	午前10時～正午	30人	693-1866	3中・如是中単位会
11/20 (土)	春日ふれあい文化センター	午前10時～11時半	50人	671-9604	城南中単位会
11/24 (水)	三箇牧公民館	午前10時～正午	40人	677-0965	7中単位会

# 昔の学校、今の学校



高槻市人権まちづくり協会 人権啓発指導員 ふじさわ よしとみ 藤澤 善富

私は、市内の小学校で教職42年間を過ごしました。この42年間を振り返ると学校の様子も昔と大きく変わりました。

当時の学校では門は常に開いていて、出入りは自由でした。2001年6月8日の大阪教育大学附属池田小学校における児童無差別殺傷事件の教訓を受けて、今は、門は常時閉鎖、正門には警備員を配置して入校時の記名や入校証などが必要です。この事件を契機に学校の危機管理体制が一変しました。プール指導でも、1993・1994年に市内の小中学校・園で、子どもの尊い命が失われるという痛ましい事故が連続しました。それ以降、再発防止の取り組みとして、排水溝チェック、跳び込み台の撤去、跳び込みの禁止、自由遊泳の禁止、バディシステム（2人1組）をとり、入水前後の人数確認など、プール管理・プール指導が大きく見直しされ、今も続いています。

子どもの命や健康を守ることが必須の学校において、当時は学校の常識として行っていたことが、結果的に子どもの命や健康を危険にさらすことにつながったわけです。

## 人権を大切にしたい学校づくり

学校ではまずは、どの子にとっても安全で安心できるクラス、すべての子どもの人権が守られたクラス集団作りを目指した取り組みを行っています。これまで学校は、数々の事象を乗り越えていくことで、子どもの命と健康を守る、人権を大切にしたい学校づくりを進めてきました。

昨年、新型コロナウイルスという世界を震撼させる、思いもよらない大きな「まさか」が出現し、今は、子どもたちはマスクをつけ、手洗いの徹底、机も隣の子と離し、給食はセルフで取りに行き、前を向いたまま静かに食べます。子どもの命と健康を守るため、学校の様子も大きく変わりました。また、毎年楽しみにしている学校行事（プール、運動会、修学旅行、林間学校、遠足、音楽会、児童会祭り…）も全部中止となりました。それでも、子ども達は日々の授業をがんばって受け、元気に過ごしています。

この新型コロナウイルスという大きな「まさか」を克服した先には、これまでにない新しい学校の姿があるはずで、人権を大切にしたい学校づくり、子どもの命と健康を守ることこそが学校の使命、果たすべき役割と思っています。

人権について困ったことがあれば…

**ひとりで悩まずに、ご相談ください**



様々な人権問題に関する相談はこちら

**みんなの人権110番**  
0570-003-110



いじめ・虐待など子どもの人権の相談はこちら

**こどもの人権110番**  
0120-007-110



セクハラ・家庭内暴力など女性の人権の相談はこちら

**女性の人権ホットライン**  
0570-070-810



外国語での人権の相談はこちら（10言語対応）

**外国語人権相談ダイヤル**  
0570-090-911



# 人権を考える市民の集い

輝く命のために ～知ることからはじめよう～



## 人権講演会

### 「ゴリラから見たコロナ後の未来社会」

(人も動物も環境もすべて健康に、ワンヘルス)



**日時** 令和3年12月11日(土) 午後2時(午後1時30分開場)

やまぎわ しゅいち

**講師** 山極 壽一 さん(元京都大学総長、総合地球環境学研究所 所長)

**会場** 市立生涯学習センター 2階 多目的ホール

**定員** 150名(申込順・申込先:当協会)

入場料  
無料

保育あり

[3歳以上未就学児  
5名まで・要申込]

手話、要約筆記  
あり

## パネル展

### 「SDGs」～知ることからはじめよう～に関する展示

市民から募集した人権啓発作品入選作品を展示

**日時** 令和3年12月10日(金)～11日(土) 午前10時～午後5時

**会場** 市立生涯学習センター 展示ホール

## 「SDGs(エスディーゼーズ)」ってなんだろう??

「SDGs(エスディーゼーズ)」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

SDGsは「17の目標」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。

地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 令和3(2021)年度 人権週間記念事業「人権啓発作品募集」 人権啓発作品を募集します

21世紀を「人権の世紀」とする取り組みが進められる中、  
市民一人ひとりが人権問題を「自分の問題」として捉え、  
お互いの人権を尊重し合う高槻市を築いていくことを目的に、人権啓発作品を募集します。  
奮ってご応募ください。

## 1. 募集部門

- ①作文（読書感想文を含む）→400字詰め原稿用紙4枚以内。
- ②標語→形式・長さは自由。
- ③絵画（ポスターを含む）→手書きの場合：用紙サイズは画用紙4つ切。  
パソコン作成の場合：用紙サイズはA2サイズ以下。  
\*応募作品は未発表のオリジナル作品に限ります。原則、各部門1人1点とします。

## 2. 作品テーマ：人権・平和に関わるテーマ

- 人権の尊さ
- お互いの人権を守ること
- 平和
- 勇気
- いじめをなくそう
- インターネット上の人権侵害
- 差別のないまち
- 助け合い
- 高齢社会
- インクルーシブな社会
- 国際理解
- 多文化共生
- 誰一人取り残さない世界
- LGBTなどの性的マイノリティ／性の多様性
- 命の大切さ

## 3. 応募資格

市内に在住または通勤・通学・通園する人

## 4. 募集期間

令和3(2021)年7月5日(月)～10月15日(金) 必着

## 5. 応募方法

応募票を記入し、作品の裏面に貼り付け、応募先へ郵送するか、直接お持ちください。

## 6. 選定方法

選定委員会を構成し選定会を行い、部門別に入選作品を選定します。(選定委員：後援団体、人権週間記念事業企画委員、高槻市人権まちづくり協会理事・事業チーム会員・広報チーム会員・人権啓発指導員等)  
入選された方には、11月中に、所属学校・園、ご本人に入選のご連絡をいたします。

## 7. 表彰・展示

12月10日(金)・11日(土)に開催する「人権を考える市民のつどい」において、表彰式と展示を行います。入選者の表彰式は12月11日(土)に予定しています。そして、入選作品を市立生涯学習センター1階・展示ホールで2日間展示する予定です。また、12月から来年2月にかけて市内公共施設を巡回し、展示します。

## 8. その他

入選作品は、市民の人権意識のさらなる高揚を図るため、人権情報誌等への掲載や、様々な機会を通じて活用させていただきますので、著作権は高槻市人権まちづくり協会に帰属するものとさせていただきます。また、応募作品は返却しますが、来年3月となる予定です。

応募された方の個人情報は作品に関する事務連絡に使用し、作品名と名前、学校名、学年は入選作品の表彰・展示において使用し、他の目的には一切使用いたしません。名前等の公表は事前に確認します。

## 9. 応募・問い合わせ先

一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会

〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階 電話：072-647-7825 / ファックス：072-647-7233

## 10. 応募票

下記サイトでダウンロードするか、市内公共施設・当協会事務局でも用意をしています。

\*応募票ダウンロード→高槻市人権まちづくり協会ウェブサイト <https://www.takatsuki-jinmati.org>

■主催：高槻市

■後援：高槻地区人権推進員企業連絡会、三島人権擁護委員協議会高槻地区委員会、高槻市障害児者団体連絡協議会、高槻市職員労働組合、高槻市教職員組合

■企画・運営：一般社団法人高槻市人権まちづくり協会

# 2021年 人権連続講座を開催します

様々な人権課題をやさしく学べる講座を開催します。  
1回だけの参加もOKです。皆さまのご参加をお待ちしております。

**会 場：** クロスパル高槻（総合市民交流センター）7階第702会議室  
\*JR高槻駅中央出口の南側出てすぐ  
**定 員：** 各回50名（要事前申し込み・先着順）  
**申込期間：** 令和3年9月3日（金） 午前9時から（各講座開催日1週間前まで）  
**申 込：** （一社）高槻市人権まちづくり協会（下記）まで

**参加費：無料**  
1講座のみの参加でも  
可能です

手話  
通訳

要約  
筆記

あり

※東京からリモートでオンライン出演

第1回

10/1

午後2時～



©菅野勝男

認定NPO法人 ウイメンズ  
アクションネットワーク  
理事長  
うえの ちづこ  
**上野 千鶴子さん**

テーマ 高齢者

**おひとりさまでも在宅で死ぬるか？  
安心のまちづくりのために**

長生きしたら最後に残るあなたは「おひとりさま」。  
今から考えよう！より良い人生を送るために。

第2回

10/8

午後2時～



NPO法人  
FCTメディア・リテラシー  
研究所 所長  
にしむら ひさこ  
**西村 寿子さん**

テーマ メディア・リテラシー

**メディアの見方、付き合い方 ～メディア社会の歩き方～**

メディア・リテラシーは、「メディア社会を生きる力」です。  
私たち一人ひとりが尊厳を持って自分らしく生きるために、  
メディア社会、メディア・リテラシーについて学びたいと思います。

第3回

10/15

午後2時～



社会福祉法人  
日本ライトハウス  
盲導犬訓練所  
盲導犬歩行指導員  
あかがわ よしこ  
**赤川 芳子さん**

テーマ 障がい

**デモ犬ジャーがやってくる ～目が見えないって、まっ暗だけ？～**

街で見かける白杖を持つ方や、盲導犬にどのように接するのがいいのでしょうか。他人ごとではない「見えない」お互いに理解を深めます。

第4回

10/22

午後2時～



木津川ダルク所長  
かとう たけし  
**加藤 武士さん**

テーマ 薬物依存症

**失敗に寄り添う ～もう一度が実現できる社会へ～**

意思が弱いから依存するのか、強い意志があれば依存から立ち直れるのか。簡単ではない回復への寄り添い方を学び、失敗から「もう一度」が実現できる社会について学びたいと思います。

第5回

10/29

午後2時～



元大阪人権博物館学芸員  
おおた きょうじ  
**太田 恭治さん**

テーマ 部落差別

**よみがえる竹田の子守唄**

フォークソング「赤い鳥」によって注目を浴びた「竹田の子守唄」。  
当時の子どもたちの生活を知り、この歌に込められた彼女への思い  
をギター演奏とともに伝えていただきます。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催が変更となる場合がございます。ご了承ください。

## 編集後記

毎号「あくていぶ」の表紙を飾っていただいている高槻市の切り絵作家 いくちたかよし 生地高芳さんの「生地高芳わがまちたかつき切り絵紀行展」へ行った。生地さんの作品を通して、高槻にも素晴らしい所がたくさんある事を実感していたが…。会場の片隅にあった「わざわざ 遠くへ 行かんでも ええとこあるやん たかつき」の言葉に共感し、ますます高槻と切り絵が好きになった。今後も「あくていぶ」を通して皆様に親しまれ、心が温くなる情報をお届けしていきたいと、あらためて思った。

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくていぶ」は協会ホームページからご覧になれます。 <https://www.takatsuki-jinmati.org/>

高槻市人権まちづくり協会



<https://www.facebook.com/takatsuki.jinmati/>